

新宮山彦ぐるーぷ第2189回

## 深仙宿・香水の鍋置台交換

◇実施日 6月29日(水)

晴

◇参加者 梶野照雄

1名

昨年の11月に設置した香水のアルミ製鍋置台が落石と思われるもので破損したため、木製に交換した。使用した木材は行仙宿で丸太から製材したもので、新たに購入したのは木材保護塗料だけで済んだ。

蓋になる部分2枚(106×24cm)と垂直部分2枚(50×24cm)の合計重量が7.5kgになったので、それぞれに穴をあけて900gほど減量した。



12.5kgだった



笠捨山と行仙岳



千丈平

午前9時過ぎに太尾登山口を出発、雲一つない快晴だが気温が高いのであまり汗をかかないようゆつくりと歩く。

登山口に駐車していたのは10台で、そのうちの8台は人影が見えなかった。

40分で不動木屋登山道分岐に到着、今年のバイケイソウは花が極端に少なく、雨不足なのか葉が茶色になっている物も多く見られた。古田の森と千丈平で休憩して12時過ぎに深仙宿に着いた。



壊れた鍋置台

落ち葉がいっぱい

新しい台を組み立てる

お堂の前で昼食を済ませ香水水に向かう。鍋や柄杓を片付け、壊れた鍋置台を取り除く。貯水槽には大量の落ち葉が詰まっていたので取り除けるものは掃除した。

取り除いたアルミ製の鍋置台から鍋を置く水平部分を取り外す。蓋の木を置いて鍋置ききの位置を決める。以前よりも少し左に寄せて取り付けた。鍋置ききの水平部分をネジで固定し、一応形が整った。木にねじれがあるのか、水槽の縁が歪んでいるのか、少しグラつく

ので石を数個置いて木を安定させた。水平部分にトラスや幅を保持する金具を取り付けて完成。以前よりも安定しているようだ。



鍋置台完成

点灯不良のLED照明

別の物に交換

香精水上の四天石は若干オーバーハングの形をしているので、落ちてきた石は水が出ているパイプに直接あたるとは無い、と思いい水平部分は以前のアルミアングルをそのまま流用した。

壊れた鍋置台を分解する。ネジは全てステンレスを使ったので外すのは簡単だったが、数が多く少し時間が掛かった。分解した鍋置台は傍の筐の中に置いた。涼しくなってから回収する予定だ。

香精水を離れ、避難小屋に向かう。小屋の5個あるLED照明の2個が不具合で一部点灯しなくなっていたので、新しいものに交換する。小屋内に入っても涼しさは無く、ドアと二つの窓を開けても額から汗が落ちてくる。

30分でLED照明の交換が終わり、お堂に脚立を戻して深仙宿を離れた。

千丈平への登りも暑さのせいでもかなりゆっくり。飲み水が少なくなつてこの先が不安になり、かくし水に立ち寄る。



四天石をバックに

かくし水の草を刈る

無事下山

かくし水はよく出ていたが周りの草やバイケイソウが伸びて、少し「かくし水」になっていた。釜で周りの草を刈り取ってよく見えるようにした。

今日は深仙宿まで足を延ばした登山者は居なかったようで、千丈平を過ぎるまでは人に出会うことがなかった。千丈平から下る途中で一人の若者が登ってきた。「泊るの？」と聞いたら、日帰りですという返事だった。時間は午後4時を過ぎていて、6時過ぎでもまだ明るい時期だが、軽装で経験も浅そうなのでちょっと気になった。午後4時半に古田の森に着き座って休憩。日は西に傾いてきたが暑さは相変わらず。かくし水で汲んだ水を一気に飲みます。不動木屋登山道分岐で立ったまま休み、午後6時前に登山口に着いた。

とにかく暑い、の一日だった。帰り道に発電所に続く橋に車を停めて旭ダム湖を覗いてみた。水位が極端に低く、橋の下は湖底が見えている。その中に一頭のメス鹿が何かを探しながら水の中を歩いていた。鹿は草食なので藻などを探しているのかもしれない。梅雨が極端に短かったので、今後の雨量次第で各水場が涸れてしまう可能性があると思う。

(記：梶野)

## 行動タイム

08：55 太尾登山口↓09：49 不動木屋登山道分岐↓10：38 古田の森  
↓11：28 千丈平↓12：08 深仙宿 15：05↓15：55 かくし水↓16：36  
古田の森↓17：12 不動木屋登山道分岐↓17：55 太尾登山口